

教育資料室だより

No.34 令和8年(2026).6.11 発行 桐生市教育資料室
桐生市小曾根町3-30(桐生市教育センター内) 電話 0277(46)6191



教育資料室

～重伝建 まち歩きに参加して～

令和8年6月4日(木) 桐生市立教育研究所主催の「地域理解研修講座」に参加した内容を紹介します。
この講座は、「桐生を好きな子どもを育てる」ために、桐生市の小中学校に初めて勤務した教職員の皆さんを対象に開催しました。**桐生新町**(現在の本町一丁目～六丁目・横山町を含む範囲)の町並みを地元のガイドさんから説明を受けながら実際に見たり触れたりする研修でした。

桐生新町は、**徳川家康**の命を受け、桐生の町が造られた礎ともなった場所です。当時から**絹織物**の生産が行われ、桐生を代表する絹織物業を中心に発展した町の形態として、江戸後期から昭和初期に建てられた主屋、土蔵、ノコギリ屋根工場など、絹織物に係る様々な建造物が一体となっています。この特色ある歴史的な建造物が残っていることから、本町一丁目及び二丁目全域並びに天神町一丁目の一部は、平成24年(2012)に**重要伝統的建造物群保存地区(重伝建)**となっています。



桐生天満宮

桐生新町町立ての起点になった場所です。社殿の裏側には、織物の繁栄を感じる彫刻などを見ることができます。

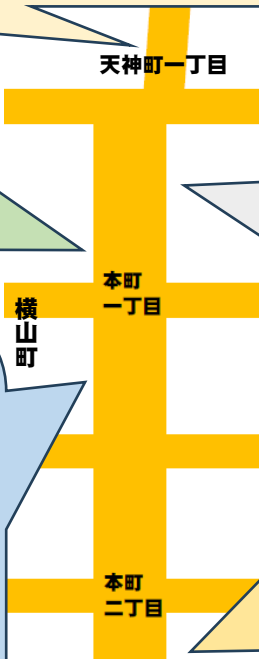


天然染物研究所

天然由来のもので染めて桐生織の伝統を守っているお店です。



天神町一丁目



銭湯「一の湯」

現在も営業していますが、かつては織物工場で働く従業員のための浴場でした。



まちなか交流館(旧眞尾(ましお)邸)

江戸時代末期に織物業を創業していた屋敷を桐生市が改修して、桐生市重伝建地区公開活用施設として令和6年に開館しました。
屋敷と蔵がつながっている特徴的な造りとなっています。



有鄰館(旧矢野蔵郡)

酒・醤油・味噌などの醸造業が営まれた頃の建物で、江戸時代から大正時代に建築されました。



☆参考ウェブサイト

桐生新町は他にも多くの歴史的価値のある建造物があります。桐生市観光物産協会では、YouTubeで案内動画を公開していますので、地域学習等で活用できます。 →



本町通りには、道路に対して「ハの字型」になって開いている配置の建物があります。
理由は諸説あるようです。

